



# 2009 J.LEAGUE AWARDS

## 最優秀選手賞に小笠原満男(鹿島)

得点王は前田遼一(磐田)、ベストイレブン日本人選手が占める

Jリーグの2009シーズンを締めくくる表彰式「2009 Jリーグアウォーズ」が12月7日、東京都内のJCBホールにおいて開催された。日本サッカー協会名誉総裁を務める高円宮妃殿下のご臨席を賜り、サッカー関係者、オフィシャルスポンサーなどのパートナー、メディア、そして各チームのファン・サポーターが集い、舞台上に登場するタキシード姿の選手たちへ熱い視線を注いだ。



各クラブの選手たちが登場後、Jリーグ3連覇を飾った鹿島の選手、スタッフが舞台上に勢ぞろい



あいさつのスピーチを行う鬼武チェアマン。今シーズンの出来事を振り返った



栄光の最優秀選手賞に輝いた小笠原。攻守の中心として、リーダーとして大活躍

「戦士たち」をテーマにした迫力あるバンドと情熱的なギターの演奏で幕を開けた「2009 Jリーグアウォーズ」は、タキシードを身にまとったJ1クラブの選手たちが次々と登場。最後に姿を現した鹿島アントラーズの全選手、スタッフらが、舞台上で優勝チーム表彰を受けた。その後であいさつに立ったJリーグの鬼武健二チェアマンは、「今日は今年1年を振り返り、Jリーグの歴史に新たな名前を刻む受賞者を、皆さんと共にたたえたい」とスピーチした。

大きな注目を集めた最優秀選手賞に輝いたのは、鹿島のJリーグ史上初となる3連覇に貢献したキャプテンのMF小笠原満男。シ

ドニーオリンピック2000のマラソン女子で金メダルを獲得したゲストプレゼンターの高橋尚子さんから、ゴールデンボールトロフィーを授与された。攻守両面にわたる大活躍、精神的支柱としてのリーダーシップが高く評価された小笠原は、「1年を通してのパフォーマンスを、いろいろな人が評価してくれての受賞ということで、非常に光栄に思う。鹿島アントラーズにかかわるすべての人に感謝したい」と受賞の喜びを語った。

鹿島の選手が同賞を受賞したのは、昨季のFWマルキーニョスに続き2年連続。1996年のMFジョルジーニョを含め、通算3人目となった。

最優秀選手賞に先立って発表されたベストイレブンは、Jリーグアウォーズ史上初めて、日本人選手によって占められた。31名(GK3名、フィールドプレーヤー28名)の優秀選手賞受賞者の中から選ばれたベストイレブンのうち、1クラブからの最多選出は鹿島の3名。MF遠藤保仁(ガンバ大阪)は7年連続7回目の栄誉となり、最多受賞回数記録を更新した。浦和レッズのDF田中マルクス闘莉王が6年連続6回目、小笠原が通算6回目で続いている。初受賞はGK川島永嗣(川崎フロンターレ)、DF長友佑都、MF石川直宏(ともにFC東京)、FW岡崎慎司(清水エスパルス)、FW前田遼一(ジュビロ磐田)の5名だった。



ベストイレブンの受賞者。前列左から、石川、内田、岡崎、長友。中列左から、中村、小笠原、遠藤。後列左から、田中マルクス闘莉王、前田、川島、岩政



©J.LEAGUE PHOTOS  
得点王のゴールデンシューストロフィーを手にスピーチする前田



©J.LEAGUE PHOTOS  
15年ぶりにルーキーの得点記録を塗り替えた渡邊が新人王



©J.LEAGUE PHOTOS  
3年連続となる最優秀監督賞を受賞したオズワルド オリヴェイラ監督



©J.LEAGUE PHOTOS  
高円宮妃殿下よりフェアプレー賞 高円宮杯を授与された磐田



©J.LEAGUE PHOTOS  
優秀主審賞の西村氏(左)と優秀副審賞の相楽氏



©J.LEAGUE PHOTOS  
最優秀育成クラブ賞の表彰を受けた浦和の橋本代表取締役社長

### 「2009 Jリーグアウォーズ」受賞一覧

最優秀選手賞	小笠原 満男(鹿島)		
(GK)	川島 永嗣(川崎F)		
(DF)	岩政 大樹(鹿島) / 内田 篤人(鹿島) / 田中 マルクス闘莉王(浦和) / 長友 佑都(F東京)		
ベストイレブン			
(MF)	小笠原 満男(鹿島) / 石川 直宏(F東京) / 中村 憲剛(川崎F) / 遠藤 保仁(G大阪)		
(FW)	岡崎 慎司(清水) / 前田 遼一(磐田)		
得点王	前田 遼一(磐田)	新人王	渡邊 千真(横浜FM)
フェアプレー賞 高円宮杯	ジュビロ磐田		
フェアプレー賞 J1	モンテディオ山形	フェアプレー賞 J2	ベガルタ仙台
フェアプレー個人賞	川島 永嗣(川崎F) / 服部 公太(広島)		
最優秀監督賞	オズワルド オリヴェイラ(鹿島)		
優秀主審賞	西村 雄一	優秀副審賞	相楽 亨
Jリーグベストピッチ賞	埼玉スタジアム2002 / 東北電力ビッグスワンススタジアム / アウトソーシングスタジアム日本平		
功労選手賞	小村 徳男(横浜FC、ガイナレ鳥取) / 加藤 望(湘南) / 名波 浩(磐田) / 福西 崇史(東京V) / 森岡 隆三(京都) / 森島 寛晃(C大阪) <small>※クラブ名はJリーグ最終所属。ガイナレ鳥取はJFL</small>		
最優秀育成クラブ賞	浦和レッズ	チェアマン特別賞	ベガルタ仙台

前田は得点王とのダブル受賞。磐田からは98、2000年のFW中山雅史、02年のFW高原直泰(現 浦和)に次ぎ、3人目の同タイトル獲得。「ここに立つことができたのは、中山さん、高原さんと一緒にプレーできたから。二人から本当に多くのことを学んだ」と先輩への感謝を述べた。

前田の所属する磐田には、反則ポイントが基準以下で最も少なかったチームに与えられるフェアプレー賞 高円宮杯が授与された。また、同じく基準以下のモンテディオ山形、ベガルタ仙台が、それぞれJ1、J2のフェアプレー賞を受賞した。2年連続してJ2フェアプレー賞を受賞した功績をたたえ、チェアマン

特別賞が仙台に贈られた。フェアプレー個人賞は、川崎Fの川島、サンフレッチェ広島のMF服部公太が獲得した。

最優秀監督賞は、これも史上初の3年連続となった鹿島のオズワルド オリヴェイラ監督。「今後とも、日本サッカーに少しでも貢献できればという気持ち。継続して、こうやって皆さんとお会いできれば」と、来シーズン以降への意欲を見せた。

3名の優秀新人賞受賞者の中から選ばれた新人王となったのは、横浜F・マリノスのFW渡邊千真。ルーキーとして最多得点となる13点をマークした23歳は、「来年はもっともっとたくさんゴールを挙げ、クラブがタイトルを取れ

るように頑張りたい」と抱負を語った。

優秀主審賞の西村雄一氏は初受賞、優秀副審賞の相楽亨氏は07年に続く2回目の受賞となった。Jリーグベストピッチ賞は、それぞれ浦和、アルビレックス新潟、清水のホームスタジアムである、埼玉スタジアム2002、東北電力ビッグスワンススタジアム、アウトソーシングスタジアム日本平。功労選手賞として、小村徳男、加藤望、名波浩、福西崇史、森岡隆三、森島寛晃の6氏が表彰された。新設された最優秀育成クラブ賞は浦和が受賞。今シーズンはFW原口元気、MF山田直輝ら、同クラブのアカデミー出身の選手が数多くトップチームにデビューし活躍を見せた。



キャリア

## 2009 Jリーグ合同トライアウトを実施。118名の選手が参加



© J.LEAGUE PHOTOS

新たな活躍の場を求めて(9番は磐田の中山)

JリーグとJリーグ選手協会の主催する「2009 Jリーグ合同トライアウト」が12月9日、10日に大阪長居スタジアムで実施された。2002年から毎年開催されている合同トライアウトは、次年度の契約を更新しないことを通知されたJクラブ所属の選手たちが、新たな活躍の場を求めてアピールの舞台とするもの。今回の合同トライアウトには、2日間で118名の

選手たちが参加して15分ハーフの試合などを行い、170名を超えるJクラブのスカウトらが見守る前で熱気あふれるプレーを見せた。この合同トライアウトの実施を提唱し、自身は初参加となったジュビロ磐田のFW中山雅史は「サッカーにかける選手たちの思いの熱さも分かったし、他の選手にも活用してってもらいたい」と話した。

大会

## AFCチャンピオンズリーグ2010のグループステージ組み合わせが決定



AFC CHAMPIONS LEAGUE

AFCチャンピオンズリーグ(ACL)2010ドロー(抽選会)がマレーシアのクアラルンプールで12月7日に行われ、グループステージの組み合わせが決まった。日本のクラブが入るグループE～Hの組み合わせは右表のとおり。グルー

プHには第89回天皇杯全日本サッカー選手権大会の優勝チームが入るが、すでにACL出場権を獲得しているガンバ大阪が天皇杯を制した場合は、J1リーグ戦4位のサンフレッチェ

広島が出場する。

グループステージは、2010年2月23日(火)、24日(水)にスタート。決勝は11月12日(金)または13日(土)に予定されている。

AFCチャンピオンズリーグ2010 グループステージ (グループE～H)

[グループE]	城南一和(韓国) メルボルン・ビクトリー(オーストラリア) 北京国安(中国) <b>川崎フロンターレ(日本)</b>
[グループF]	<b>鹿島アントラーズ(日本)</b> 全北現代モータース(韓国) ベルシブラ・ジャヤブラ(インドネシア) 長春亜泰(中国)
[グループG]	河南建業(中国) <b>ガンバ大阪(日本)</b> 水原三星ブルーウィングス(韓国) プレーオフ(東地区)の勝者
[グループH]	アデレード・ユナイテッド(オーストラリア) 山東魯能(中国) <b>第89回天皇杯全日本サッカー選手権大会優勝チーム</b> 浦項スティーラース(韓国)

受賞

## AFC年間最優秀プレーヤーにG大阪の遠藤が選ばれる

AFC(アジアサッカー連盟)は11月24日、マレーシアのクアラルンプールで「AFC年間アワード2009」を開催し、ガンバ大阪のMF遠藤保仁をAFC年間最優秀プレーヤーに選出した。AFCチャンピオンズリーグ(ACL)や日本代表での活躍などが高く評価されての受賞となった。日本人選手としては2002年のMF小野伸二(当時はオランダのフェイエノールト所属)以来4人目。初受賞となった遠藤は「来年、JリーグとACLのタイトル獲得のために、コンスタントに良いパフォーマンスを見せ、チームに貢献したい」と、AFC公式ウェブサイトを通してコメントしている。

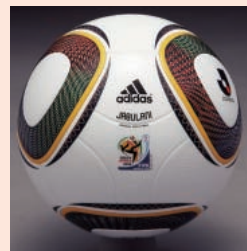


© J.LEAGUE PHOTOS  
アジアでも高い評価の遠藤

### 2010 Jリーグ公式試合球として 2010 FIFAワールドカップ™ 南アフリカ大会 公式試合球“JABULANI®(ジャブラニ®)”を使用

Jリーグは、2010 Jリーグ公式試合球として、Jリーグエクイップメントサプライヤー 株式会社モルテン(東京都墨田区 民秋史也 代表取締役社長)の提供を受け、アディダス社の“JABULANI®(ジャブラニ®)”を使用することとなった。

“JABULANI®(ジャブラニ®)”とは、南アフリカ共和国の公用語の一つであるズールー語で「祝杯」を意味する。アフリカ大陸で初の開催となるFIFAワールドカップを、全世界の人々が祝福する気持ちが込められている。



キック精度が大幅に向上。雨天時の性能もアップした

### スーパーカップ冠スポンサーに富士ゼロックス株式会社

Jリーグは、2010年のスーパーカップ冠スポンサー契約を、これまでに引き続き、富士ゼロックス株式会社と締結することを決定した。FUJI XEROX SUPER CUP 2010の開催日、開催会場、出場クラブについては、以下のとおり。

2010年 スーパーカップ冠スポンサー			
企業名	富士ゼロックス株式会社		
開催日	2010年2月27日(土)	開催会場	国立競技場
出場クラブ	鹿島アントラーズ(2009 Jリーグチャンピオン) vs 第89回天皇杯全日本サッカー選手権大会 優勝クラブ ※2009 Jリーグチャンピオンと第89回天皇杯全日本サッカー選手権大会優勝が同一クラブの場合は、2009 JリーグJ1リーグ戦準優勝のクラブが出場する。		

### Jリーグ百年構想パートナーに株式会社 朝日新聞社

Jリーグは、Jリーグ百年構想パートナー契約を、これまでに引き続き、株式会社 朝日新聞社と締結することを決定した。契約期間は、2010年の1年間となる。

Jリーグ百年構想パートナー	
企業名	株式会社 朝日新聞社
契約期間	2010年1月1日～2010年12月31日(1年間)
契約内容	● Jリーグ理念の具現化に向けた各種活動に対する広報支援。 ● Jリーグ百年構想をキーワードとしたJリーグ理念に関する啓蒙活動など。

## 登録期間(ウインドー)と追加登録期限について

Jリーグは12月14日に開催された理事会で、日本サッカー協会が今後、登録期間(ウインドー)を固定することを承認した。第1登録期間(ウインドー)は1月2日以降の第1金曜日から12週間、第2登録期間(ウインドー)は7月の第3金曜日から4週間。これに基づき、2010シーズンのJ1・J2リーグ戦、およびJリーグヤマザキナビスコカップの追加登録期限が右記のように決定した。

2010シーズン登録期間(ウインドー)	
第1登録期間	2010年1月8日(金)~4月2日(金)
第2登録期間	2010年7月16日(金)~8月13日(金)

日本サッカー協会は、国際サッカー連盟(FIFA)の規則に基づき、上記のとおり、登録期間(ウインドー)を定める。FIFAは各国協会に対し、年2回の登録期間(ウインドー)を設けることを義務づけており、第1登録期間(ウインドー)は、シーズンとシーズンの間に最大12週間、第2登録期間(ウインドー)はシーズン中に最大4週間の期間と定められている。FIFAおよび日本サッカー協会の規則に基づき、Jリーグおよび、JFLのクラブへの選手の登録(移籍)は、一部の例外を除き、原則として「登録期間(ウインドー)」の期間中においてのみ可能となる。

2010シーズン追加登録期限	
J1リーグ戦/J2リーグ戦	2010年9月24日(金)
Jリーグヤマザキナビスコカップ	

Jリーグは、大会の公平な競争性を確保する観点から、リーグ戦とヤマザキナビスコカップについて、クラブが選手を追加登録できる期限を定めている。※原則として、左記の登録期間(ウインドー)中にのみ選手の登録(移籍)が可能となるが、登録期間(ウインドー)の例外が認められる登録を含む全ての登録に関する期限として、Jリーグで定めるもの。原則、リーグ戦は、シーズン4分の3を過ぎる追加登録(J1は第25節 10月2日、J2は第28節 9月26日)を不可としている。また、ヤマザキナビスコカップは、準決勝第1戦(9月29日)以降の追加登録を不可としている。従って、追加登録期限をいずれの日程よりも早い、9月24日とした。

## 2009 Jリーグアンフェアなプレーに対する反則金

Jリーグは毎シーズン、アンフェアなプレーによる反則ポイントが多いクラブに対し、制裁措置として反則金を科しているが、今シーズンは、下記のJ1・2クラブ(2008年は6クラブ)、J2・5クラブ(2008年は4クラブ)がその対象となった。これは、Jリーグ規約第11章『制裁』第163条〔アンフェアなプレーに対する反則金〕および第164条〔反則ポイントの計算方法〕に基づく措置。

J1										
反則ポイントの年間合計数が102ポイントを超えた場合、当該Jクラブに対し、以下のとおり反則金を科すものとする。										
103ポイント以上112ポイント以下		40万円	133ポイント以上142ポイント以下		100万円	163ポイント以上172ポイント以下		250万円		
113ポイント以上122ポイント以下		60万円	143ポイント以上152ポイント以下		150万円	173ポイント以上		300万円		
123ポイント以上132ポイント以下		80万円	153ポイント以上162ポイント以下		200万円					
順位	クラブ	反則ポイント	反則金	試合数	警告	警告2回による退場	退場	停止試合数	警告・退場なしの試合数	1試合平均ポイント
1	ジュビロ磐田	21	¥0	34	45	0	0	4	12	0.62
2	モンテディオ山形	23	¥0	34	41	0	0	4	10	0.68
3	清水エスパルス	36	¥0	34	44	1	0	5	8	1.06
4	F C東京	46	¥0	34	48	1	1	8	10	1.35
5	ガンバ大阪	55	¥0	34	57	1	0	7	8	1.62
6	サンフレッチェ広島	61	¥0	34	53	2	0	8	6	1.79
* 7	京都サンガF.C.	63	¥0	34	51	3	1	9	7	1.85
8	横浜 F・マリノス	69	¥0	34	53	1	0	9	4	2.03
9	鹿島アントラーズ	71	¥0	34	52	1	1	9	4	2.09
10	川崎フロンターレ	75	¥0	34	54	3	1	10	5	2.21
10	アルビレックス新潟	75	¥0	34	60	3	0	11	7	2.21
12	大宮アルディージャ	76	¥0	34	62	2	0	9	5	2.24
12	ジェフユナイテッド千葉	76	¥0	34	58	0	2	9	5	2.24
14	ヴィッセル神戸	88	¥0	34	60	1	1	10	2	2.59
15	大分トリニータ	91	¥0	34	60	1	3	12	5	2.68
16	浦和レッズ	100	¥0	34	71	2	0	12	3	2.94
* 17	名古屋グランパス	116	¥600,000	34	66	5	1	16	2	3.41
* 18	柏レイソル	121	¥600,000	34	74	5	0	18	4	3.56
合計			¥1,200,000							2.06

\*印のクラブのポイントには、次の停止試合数が含まれる。 ・退席および退席に伴うベンチ入り停止試合数 ・最終節の退場処分により未消化の停止試合数

J2										
反則ポイントの年間合計数が153ポイントを超えた場合、当該Jクラブに対し、以下のとおり反則金を科すものとする。										
154ポイント以上163ポイント以下		40万円	174ポイント以上183ポイント以下		80万円	194ポイント以上		150万円		
164ポイント以上173ポイント以下		60万円	184ポイント以上193ポイント以下		100万円					
順位	クラブ	反則ポイント	反則金	試合数	警告	警告2回による退場	退場	停止試合数	警告・退場なしの試合数	1試合平均ポイント
1	ベガルタ仙台	17	¥0	51	48	2	0	7	18	0.33
2	湘南ベルマーレ	86	¥0	51	71	3	2	16	14	1.69
* 3	ファジアーノ岡山	107	¥0	51	79	7	1	17	11	2.10
4	横浜F C	110	¥0	51	85	4	0	17	10	2.16
5	サガン鳥栖	122	¥0	51	88	4	1	18	9	2.39
6	カターレ富山	125	¥0	51	85	4	0	18	6	2.45
7	F C岐阜	127	¥0	51	91	3	0	21	10	2.49
8	ロアッソ熊本	128	¥0	51	96	5	0	18	9	2.51
9	ヴァンフォーレ甲府	131	¥0	51	86	0	0	23	8	2.57
9	愛媛F C	131	¥0	51	91	7	1	19	9	2.57
11	東京ヴェルディ	134	¥0	51	93	2	3	19	9	2.63
* 11	徳島ヴォルティス	134	¥0	51	87	2	2	23	10	2.63
13	アビスパ福岡	136	¥0	51	93	4	2	18	7	2.67
* 14	栃木S C	156	¥400,000	51	98	4	3	24	9	3.06
15	コンサドーレ札幌	175	¥800,000	51	101	2	2	28	6	3.43
* 15	セレッソ大阪	175	¥800,000	51	103	3	2	25	4	3.43
17	水戸ホーリーホック	179	¥800,000	51	101	0	2	28	4	3.51
* 18	ザスパ草津	199	¥1,500,000	51	99	4	2	34	4	3.90
合計			¥4,300,000							2.58

\*印のクラブのポイントには、次の停止試合数が含まれる。 ・退席および退席に伴うベンチ入り停止試合数 ・最終節の退場処分により未消化の停止試合数

<反則ポイントの計算方法> (反則ポイント)=[(警告)-(警告2回による退場)×2]×1ポイント+(警告2回による退場)×3ポイント+(退場)×3ポイント+(停止試合数)×3ポイント-(警告および退場(退席を含む)がなかった試合数)×3ポイント

# 2009 Jリーグ チェアマン総括

(社)日本プロサッカーリーグ チェアマン 鬼武 健二

今年、日本経済研究所が発表した「Jクラブの存在が地域にもたらす効果に関する調査」で、Jクラブは「地域の重要無形文化財となり得る」と評価された。Jリーグ開幕から17年が過ぎ、クラブ数は36に増え、「Jリーグ百年構想」が目指す地域密着型のクラブづくりが理解され定着してきた表れであり、各クラブの活動に敬意を表したい。

一方で17年が過ぎ、複数のクラブが経営難に陥るなどさまざまな問題が表面化してきた。クラブ経営は一朝一夕に成るものではないが、世界的に厳しい経済情勢下において、このような時だからこそスポーツ、サッカーが社会に果たすべき役割の大きさを再認識しなければならない。Jリーグが掲げる理念において、Jクラブは地域活性化の旗頭となるべき存在である。各クラブには、地域を元気にすることで日本全体を活性化させる重要な一役をぜひ担ってほしいと願う。

プロとしての姿勢を問われる課題も残った。日本の将来を担う子どもたちに対して、Jリーグの選手は憧れとともに模範とならなくてはならず、その点においてもJリーグの存在意義が問われる一年となった。

Jリーグはさらに進化を求めていかなくてはならない。変革が自らの発展につながるものと考え、より多くの魅力を全国に発信し、日本のスポーツの牽引役として、その役割を果たしていかなくてはならない。

## リーグ戦

鹿島アントラーズは、最終節で見事に史上初の3連覇を達成した。これは、若手を育てながら強いチーム力を維持するという困難な仕事を成し遂げた成果であり、監督、選手と共に、クラブづくりに取り組んできた鹿島のスタッフ全員に敬意を表したい。

川崎フロンターレは残念ながら初優勝はなかったが、クラブが取り組んできたホームタウン活動がチーム力強化の原動力となったことは間違いない。4位のサンフレッチェ広島は、J1昇格後、アグレッシブで人もボールも動くスピーディーなサッカーというコンセプトのもと、魅力的な試合を見せてくれた。これはアクチュアルタイムがJリーグ36クラブ中、最も長いという記録にも端的に表れているといえるだろう。高く評価したい。

J2リーグ戦では、ベガルタ仙台が優勝を決め、昨年に続きフェアプレー賞を受賞した。ここ数年、J2で上位をキープし素晴らしい成績を収めながらフェアプレーを徹底してきた姿勢が、優勝そしてJ1昇格に結実した。手倉森誠監督の手腕を高く評価したい。

また、J1では前田遼一(ジュビロ磐田)、J2では香川真司(セレッソ大阪)が最多得点を挙げた。日本人ストライカーの台頭が期待されて久しかっただけに、特にJ1で前田遼一が得点王に輝いたのは非常にうれしいニュースであった。

## ACL

JクラブがAFCチャンピオンズリーグ(ACL)を制し、FIFAクラブワールドカップで活躍することは、今やJリーグ全体の目標となった。今季は残念ながら3連覇はならず、初出場の名古屋グランパスが4強入りにとどまった。現在のアジアにおけるJリーグの実力からいえば、今年もJクラブが優勝しなければならなかったと考える。非常に残念であった。

また今後は、ACLによるクラブのアジア進出と連動し、アジアマーケットも視野に入れたビジネス戦略を積極的に展開していきたい。

## 選手育成

2009 Jリーグヤマザキナビスコカップでニューヒーロー賞、決勝でMVP賞を受賞した米本拓司(FC東京/決勝戦時18歳)は、素晴らしいプレーを見せてくれた。大きく成長してほしい。同じFC東京の20歳の権田修一も、GKという経験が求められる重要なポジションでありながら見事にタイトル獲得に貢献するプレーを見せてくれた。ほかにも、浦和レッズの山田直輝、原口元気ら、有能な若手選手が活躍したが、まだまだ多くの若手選手の台頭が求められる。

また、今季から新たに設けた最優秀育成クラブ賞は、浦和レッズが受賞した。日本サッカーの強化、Jリーグのレベルアップのためには、ユース年代からの育成が不可欠であり、素晴らしい環境を整え優秀な選手の育成に尽力してきた浦和レッズと指導スタッフには心より敬意を表したい。全クラブにはさらに、日本サッカーの未来のために選手育成に励んでほしい。



© J.LEAGUE PHOTOS

## プロ選手として

2009 Jリーグヤマザキナビスコカップ決勝終了後の表彰式において、敗れたチームの選手が品位に欠ける態度を取った。重要な試合に敗れた悔しさ、落胆を理由にするのは甘えといわざるをえない。プロの選手として人間として、周囲への礼儀、リスペクトを欠いた行為は非常に残念であった。リーグカップ戦のようなノックアウト方式では、勝ち上がって決勝のピッチに立つことに意義があり、両チームともたたえられ祝福されるべき存在である。折しもJリーグと日本サッカー協会は、サッカーを楽しむために不可欠の要素であるリスペクトの精神を広める「リスペクト・プログラム」を推進している。次代を担う子どもたちへの影響も考え、今回の出来事を教訓として全ての選手がプロにふさわしい姿勢で試合に臨まなければならない。

## クラブ経営

今季は大分トリニータ、東京ヴェルディなど、クラブ経営が深刻化する問題が浮上した。世界的な不況のもと、スポンサーの撤退やスポンサー料の減額など厳しい状況に直面しているが、このような時だからこそ、自治体や企業、ファン・サポーター、地域の皆さんと協力し合い、真に地域に根差したクラブづくりを進めていかなければならない。クラブ数の増加が経営悪化の一因との声もあるが、それは全く関係ない。ほとんどのエリアではクラブがマーケットを取り合う状況にはなっていない。地域住民、自治体や地元企業の理解を深め、いかに地域と一体となったクラブづくりをするかが重要である。

そのような意味でも、われわれが掲げる理念を推進すること以外に、Jリーグが生きる道はないことを再認識した一年でもあった。



「Jリーグニュース」は100%再生紙を使用しています。